



2012 年度 未踏 IT 人材発掘・育成事業 採択案件評価書

1. 担当PM

プロジェクトマネージャー：越塚 登 PM
(東京大学 大学院情報学環 教授 /
YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所 副所長)

2. 採択者氏名

チーフクリエイター：藤田 琢磨
(同志社大学大学院 理工学研究科情報工学専攻)

3. 委託金支払額

1,792,000 円

4. テーマ名

ユーザ情報を考慮した次世代メニュー提示・注文システム

5. 関連Webサイト

なし

6. テーマ概要

昨今、焼肉店や寿司店、居酒屋などでタッチパネルを使ったメニューの注文方式が導入されてきている。タッチパネルへの移行のメリットとして、店側は人員削減、注文ミスの防止などの面がある。客側のメリットとしては店員を呼ばなくてもよい、スムーズな注文、追加注文がしやすいなどの面がある。加えて、近年 Android や iOS の登場により、多くの人々がスマートフォンをはじめとする携帯情報端末を所有する時代を迎えており、Near Field Communication(以降 NFC)といった近距離無線通信技術を用いた

携帯情報端末向けのソリューションが展開しつつある。例えば、NFC で用いられる IC タグに対してスマートフォンをタッチすると、あるスマートフォンアプリケーションが起動し、その上でサービスが実行されるようなものがある。これはこれまでのボタンを押すといった動作ではなく、タッチという動作が新たなトリガとなっている。

本プロジェクトでは、店側で設置する座席の IC タグと客であるユーザが所有するスマートフォンとを近距離無線通信技術を用いて連動させる、次世代のメニュー提示・注文システムを開発する。携帯情報端末に保存されたユーザの性別や年齢、食べ物の好き嫌い、アレルギー、よく食べているものなどのユーザ個人の情報を利用し、メニューが動的に変化するような次世代メニューシステムを開発することで、ユーザ個々の嗜好や目的に合ったメニュー提示が可能になると同時に、店側にとっても販売活動の促進が期待される。

7. 採択理由

本提案は、飲食店などで、利用者(顧客)の preference に応じて自動カスタマイズされた注文メニューを提示するシステムである。特に、チャレンジングな技術を実現しようというものではないが、クリエイターの実生活体験にも根ざしているとも思われ、地に足のついたアイデアと発想だと考えられる。システムの規模や難易度的にも、クリエイターが未踏期間の短期間で開発を完了することが可能そうである。非常に実用性も高く、飲食店以外でも、様々なバリエーションと展開が考えられる。未踏事業終了時には、サービスインできることも目指して、実用性の高いサービスを開発することが期待される。

8. 開発目標

利用者が持っているスマートフォンやタブレットを用いて、飲食店と顧客(利用者)の間をつなぐ、スマートメニューを開発すること。店舗のテーブルには、NFC タグを設置し、NFC タグの機能を活用して、サービストリガーとするユーザインタフェースを持たせること。更に、出される品物におけるアレルギーチェックなどが行なえること。これらの特性を満たすシステムを開発することが目標である。

9. 進捗概要

スマートなメニューシステムは、私以外の PM にも高く評価されたアイデアであり、即座にビジネス展開できそうな光ったテーマであった。開発の方向性としてクリエイター本人は、アレルギーの自動チェックにこだわりがあったようであるが、私も含め周囲から

は、もっと大きな可能性を感じ、それをクリエイターにぶつけたところ、かなり消化不良を起したような気がする。

最終的には、本人の一番のこだわりであったアレルギーの自動チェックといったところに焦点を絞らせて、システムとしてまとめた。

10. プロジェクト評価

開発の方向性としては、実用化をしようと思うと、バックヤードにある、調理場とのコミュニケーション、会計システムとの連動が必要とされ、そちらの方向性もある。一方、ユーザインタフェースの部分に注力すれば、スマートフォンやタブレットを活かした洗練されたサービスを提供する事可能性もある。更にビジネス展開を考えれば、CRM機能に特色を持たせることもできる。こうした方向性や可能性を、未踏事業期間中にクリエイター自身では、うまく消化できず、提案当初の発想をそのまま実現するという形になった。可能性が十分にあるテーマなので、期間中にそのあたりをもう少し深められればよかった。

11. 今後の課題

上記のとおり、可能性のあるテーマなので、このテーマを暖めながら、社会人になりビジネスセンスを持った状況であれば、もう少し違う方向に展開できたと考えられる。